

| | | | |
|---------------|---|-------|--------------|
| 授業科目名 <英訳> | 情報・史料学(特殊講義) Humanistic Informatics (Special Lectures) | 担当者氏名 | 文学研究科 教授 林 晋 |
|---------------|---|-------|--------------|

| | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|---|-----|----|-----|----|------|------|
| 配当学年 | 3回生以上 | 単位数 | 2 | 開講期 | 前期 | 曜時限 | 月5 | 授業形態 | 特殊講義 |
|------|-------|-----|---|-----|----|-----|----|------|------|

| | |
|----|------|
| 題目 | 再魔術化 |
|----|------|

[授業の概要・目的]

社会学者マックス・ウェーバーの脱魔術化は、彼の近代化論の中核概念の一つであるが、1980年代以後、それへのアンチテーゼともいえる「再魔術化」という概念が、歴史学、社会学などの様々な分野において登場した。サイバー空間が世界を覆いつつある現在、再魔術化の進行は、ますます顕著になりつつある。再魔術化は、脱魔術化以前への後戻りではなく、むしろ、「近代化」の進展の帰結だからである。

脱魔術化とは何か、また、それは何故起きたのか。そして、今後、それはどこまで、どのように進んでいくのか。これらの問題を、歴史社会学、および、社会哲学的手法を用いて分析する。

分析の対象とするものは、主に次の四人の著者の諸著作であるが、これ以外に、数学におけるヘルマン・ワイルの思想なども検討する。また、検討対象は、さらに増える予定である：

Morris Berman : history, sociology (social criticism?)

Anne Harrington : history of science

George Ritzer : sociology

Alan Bryman : Organisational and Social Research

この内、Bryman は、直接、再魔術化という用語を使っておらず、講義で分析対象とするものは、彼のディズニー化の概念である。この講義では、社会哲学者 Scheler の意味での Wissenssoziologie (知識社会学) の立場を継承し、WEB上の集合知を、集団的知の「質料」(実質、die Materie) として理解する。これは、Scheler が、彼の実質価値倫理学において行った「脱形式主義」の試みを、その最大の難点である「アプリオリな価値比較」の概念に修正を加えて、社会的活動一般に拡張する見地である。この見地に立つと、経営学の概念であるディズニー化や、日本的経営 (Giddens などの Japanese system)、感情労働、WEB上の集合知、などと、再魔術化の関係が明瞭となり、それらも再魔術化の一種として検討可能となるのである。

[授業計画と内容]

次の項目をそれぞれ2-3回講義する。

0.脱魔術化：ウェーバー社会学のおさらい

1.再魔術化とは：脱魔術化と再魔術化の関係とは？

2.再魔術化概念登場の歴史的背景

3.脱魔術化概念登場の歴史的背景とその反論者たち

4.19世紀ドイツ生命科学における再魔術化

5.数学の近代化と「再」魔術化：合理化された「形而上学」としての公理的集合論

6.ドイツ知識社会学と再魔術化

7.サイバー空間と再魔術化

8.現代の生命工学と再魔術化

9.生氣論、IT,AI

情報・史料学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・基準】

小レポートを数回出題し，それにより採点する．

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

KULASIS以外に講義用のサイトを開設し、講義資料、参考文献などを掲示する。そのサイトのURLは最初の講義の際に伝える。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。